
ある恋人達の物語

Tsunaki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある恋人達の物語

【Zコード】

N6819H

【作者名】

Tsunaki

【あらすじ】

常磐奈央17歳。櫻井唯斗同じく17歳。一人は幼なじみで恋人。なんだかんだで毎日幸せな一人だけど、そんな一人にも何かが起きる！？

プロローグ（前書き）

たらたらと、でも頑張って書きます！
感想や評価はかなり原動力になるので、よろしくお願いします！

プロローグ

明るい照明が灯つた広い待合室。もうすぐ生まれくる小さな生命を、心待ちにする人で溢れている。

そんなところに響いたのは、突然の再開を祝う声。

「あつ！みつちゃんじゃない？久しぶり！」

「嘘！香菜子？やだ〜すごい久しぶりじゃん！」

あまりに大きな声で騒いでいたため、周りから訝しげに見られ少し声を落とした。

「香菜子、結婚したの？もしかして常磐くんと？」

「そうそう。今は常磐香菜子よ。そうだね、みつちゃん外国行つてたから分かんなかつたよね。」

この2人、高校の同級生で親友だったのだ。
約3年半ぶりの再会。自然と会話は弾んだ。

「で？香菜子のところはどうち？診でもらつた？」

香菜子は嬉しそうにはにかむと、もうかなり大きいお腹を愛しそうに撫でながら言った。

「女の子だつて。」

それを聞いてみつちゃんこと美智はかなり喜んだ声をあげた。

「あたしのところは男の子なの！」

二人は可笑しそうに笑うと、どちらともなく言った。

「大きくなつて、結婚なんかしたら良いのにね…」

2ヶ月後、

櫻井家長男

唯斗 誕生

その1ヶ月後、

常磐家次女

奈央 誕生

物語は17年後から始まる。

一人の朝

ジリリリ・・・・

部屋中に響く田覚ましの音。

「…むぐう…」

奇妙な声をあげて寝返りをうつたのは、長い髪をベッドに広げた状態で寝抜けた少女だった。

ジリリリ・・・・

なりやまない音。

どんどん眩しくなる朝の光。

イライラと手を伸ばすと、そこに田覚まし時計は無く、代わりに誰かの手に触れた。

なんでこんなとこに手があるのか、などとは考えもせず、反射的にその手を握る。

「朝から甘えんぼさんだなあ奈央は。」

諭すような男の声に、瞬時に頭が覚醒した。

ガバッと起き上ると、案の定、ニーニーと笑う彼氏がベッドの横に座つて手を握っていた。

「ゆ…唯斗…」

グレイグリーンの瞳に薄い茶の髪。

ぱっと見外国人のようなこの男は、お隣に住む幼なじみ、ちなみにハーフだ。

「なんで…いるの?…」

ぱっと手を離さないとよけいに強く握られ、引き寄せられる。

「モーニング キス」

やけに発音のいい英語でそういうと、奈央の額にキスを落とす。すっと手を離すと、ニーニーと笑つて、

「早くしないと遅れるよ。」

と、部屋を出ていった。

一昨年亡くなってしまった唯斗の父、ジョーモーズさんの影響か、唯斗は時々ああいつたことをする。

別に嫌ではないが、寝起きの心臓には悪いので、ちょっとやめてほしい。

溜め息をついて一階に降りると、何故か食卓に唯斗がいる。

「な～んて居るかなあ？」呆れたように「う」と、母親の香菜子が嫌味な笑顔を向けてくる。

「あらあ？ 誰のおかげで遅刻を免れたと思つてるのかしら？」

「お母さんが起こしてよ…」

「主婦は忙しいの。唯斗くんに感謝なさい。」

ぶーたれて席につくと、ひとつ年上の姉、美央が笑いながら横腹をつついてきた。

「本当は唯斗に起しきされて嬉しいくせに。」

ニヤニヤと笑う姉に必死の反論をしていくと、一階から二つ年下の弟、利央が降りてきて言った。

「奈央姉うるさい。」

開口一番それかい！と突っ込みたい気持ちをおさえて大人しく「飯を食べ始めると、今度は

「奈央が大人しいとなんか気味悪いや。」

と唯斗に言われる始末。

朝から疲れる…と席を立ち、一階に鞄を取りにいくと何故か唯斗もついてきた。

「ちょっと…あたし着替えもするんだからさ、来ないでよ。」

疲れとイライラで少々言い方がキツいあたしに、唯斗は少し不安になつたようだ。

「ごめん、怒った？」

「怒つてない。」

「ごめんね？」

「怒つてない…」

暖かい体が、あたしを包んだ。

「「Jめん、奈央…」

「・・・・」

ズルいや、唯斗は。

こうすると、あたしが許すの知ってるんだもん。

唯斗は幼なじみで恋人で、あたしの大切な人。
なんだかんだあって今日も幸せな朝です。

学校へ行こうー

「なんで奈央あんなに遅いの？準備に時間がかり過ぎだよー。」

息を切らしてあたしと唯斗は走った。異様に長引いてしまった朝の支度に遅刻を余儀なくされてしまったのだ。

「いつまでもあたしに引っ付いてるからよー。いくらなんでも唯斗の前で着替えらんない！」

少し顔を赤らめて答えると唯斗は反省の色も見せず飄々と言った。

「奈央が可愛いから。」

とたんに赤くなってしまった奈央に再度笑い掛けると、唯斗はくすぐつたくなるような声で言つた。

「奈央が可愛すぎるからだよ。」

ふわりと体が浮いたと思つたら、唯斗が走りながら器用に奈央をお姫様抱っこしていた。

「ちょっ！降ろしてよーおくれちゃうーー！」

奈央の抗議もサラリと受け流し、唯斗は走り続けた。実はかなり俊足の唯斗。

3分としないうちに校門に着いた。

相変わらず速いな。そんなとこを考えていると、なんと、唯斗は奈央を抱えたまま校門に手をかけた。

「ゆ、唯斗ー？」

ニコッと笑うと片手で奈央をしつかり掴み、かるがると校門を乗り越えた。

唚然とする奈央をよじやく降ろすと、
「さ、いこー」
と手を差し出してくる。

ボーッとしている奈央の手を優しく握ると、楽しそうに歩きだした。

「お！ 櫻井、常磐！ 仲良く登校か！」

担任の冷やかしをうけても、唯斗はあまりこたえてないらしい。む
しろ、面倒をうながす決意を胸からじみ出せなかつた。

「いいでしょ。奈央ちゃん超かわいいしい！」

などと語りかたで如矢

パツとみると、仲睦まじい痴話喧嘩。

たが、

非情な声によつて笑顔がひきつる。

この学校の罰掃除は、かなり厳しいと有

「口」と笑う担任の田が笑っていない。

これ重罪なけ

「うー・・・ちべたー…」トイレの凍るよつな水で雑巾を洗いながら雑斗は呻いた。

かつた。

「奈央と一緒にじゃねえのかよー！！」

そう、彼が掃除してるのは男子トイレ。奈央は部屋を一つ隔てた女子トイレなのだ。

冷たいし、キツいし、奈央はいないし、もうやめるか。

案外問題児の唯斗は、廊下にて、奈央のところに向かつた。

そして見つけた。

奈央が掃除しているトイレを覗いて、奈央と楽しげに話す男子生徒
を・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6819h/>

ある恋人達の物語

2010年11月10日14時50分発行